

## 2021 年度にこにこ福祉事業報告書

2021 年度、新型コロナウイルス感染症への対応へ追われる年でした。

年度当初から、感染予防の徹底を図るよう取り組んできましたが、職員 1 人が新型コロナウイルスの陽性になり、思わぬ BCP 体験となりました。世間では連日、たくさんの陽性者人数の発表がありました。幸いなことに利用者の罹患はありませんでした。感染症予防及び BCP の必要性を強く感じた年でした。

障がいのある人への権利擁護の在り方について、2020 年度から引き続き取り組んできました。6 事業所から職員を 1 人ずつ選出し権利擁護を議題とした定例会に取り組んでまいりました。権利意識の向上と支援者の質の底上げのため、全職員を対象とした勉強会へも取り組みました。主任が講師となり内部で高めあいました。またコロナ禍で外部研修がリモートで多く行われたこともあり参加する回数が増えています。

共同生活ほいーるにおいては、新たな居住施設建築へ取り組みました。障がいのある方の高齢期を特に意識した構造にしました。同時に利用者の障がい特性にも着目して障がいに応じた住まいの場を検討することができています。

法人の財政基盤強化について運営費収入の増収と職員の俸給体系の見直しを行いました。

運営費収入については、利用率の向上のため職員の質を上げることが念頭にまた魅力ある事業所の構築、年度末には処遇改善臨時交付金が給付されたことにより約 1,600 万円強の増収を図ることができました。しかしながら現場職員の増員と法人事務体制の強化が必要なことから人件費も同程度の増額となっています。法人規模が大きくなるにつれ法人の事務体制の強化及び電子化への移行については法人職員の退職があり十分に取掛かることができませんでした。今後の課題の一つです。

法人組織としては、理事長が専任となりそこを中心として法人、事業所の役割が機能しつつあります。役職者等の役割を細分化することで組織体制の構築に繋がっています。

令和 3 年度はコロナ禍をはじめ、様々なことがありました。事業所の利用者及び家族・保護者の皆様をはじめ関係者、地域の皆様から温かいご支援、ご協力を賜りましたことを心から感謝いたします。

## 2021年度にこにこ会 事業報告 (就労継続支援 A 型事業所)

はじめに

2021年度は、コロナ禍による生活様式の変容が浸透した1年でした。

就労事業においては、昨年に比べ売上は減少しましたが、にこにこ会で製造している焼肉のたれ(こだわりのたれ)が福山ブランドに認定された事で、注文数は伸びてきました。また、学校給食に納品している「だいじょ芋入り鶏団子」は、高評価を頂き昨年に引き続き福山市全域の給食で使ってもらっております。しかし今後も原材料・人件費等の高騰が続く事が予想され、経費の圧迫が考えられます。その為、もう一度数字の見直しを行い、取引先企業との連携を密にした働きかけを行っていきたいです。

支援においては、「利用者自ら行動する」を軸とし、それに伴い作業日誌の見直しを行い、個別に作業の強化に努めてまいりました。また、利用者自身で作業日誌の作業チェック・報告欄に記入することで、自身の仕事に対する責任感の向上に繋がっております。しかし、特定の利用者間でトラブルが多発し、その都度職員が対応してきましたが、結果として1名の退職となりました。この件を踏まえ、利用者に寄添う支援を基本とし、内外部の研修に積極的に参加し、支援スキルの向上を図っていきたいです。

健康管理においては、出勤時の検温と体調チェック・手指消毒、部屋の換気や清掃及び消毒をより一層強化しました。また、給食の食堂利用も椅子の数を減らし、机に衝立を置き対面しても安全な環境を作り、黙食するようにしました。1人1人のコロナウイルス感染症に対する予防意識が強く、事業所において1人も感染者が出なかったことは喜ばしいことでした。

しかし、コロナワクチン接種の副作用で利用者の休みが多くなり、利用率の低下に繋がりました。その為、訓練等給付費収入の減少となり、当初掲げていた修繕の為の積立金を確保することが出来ませんでした。

### 1) 利用人数

定員20人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15

平均年齢・・・33.5歳(50代・・・1人 40代・・・2人 30代・・・5人 20代・・・7人)

退職者2人 2022年3月31日付け(一般就職1人 自己都合1人)

2) サービス提供日数 267日 利用率・・・98.1%

3) 有給休暇取得日数 平均11.8日/人

### 4) 利用者賃金

- ・利用者賃金総支給額 23,019,387円 (2020年度 22,893,526円)
- ・月額支給平均賃金 130,053円 (2020年度 127,186円)
- ・利用者支給人数 延べ177人 (2020年度 180人)
- ・最低賃金 899円 (2021年10月改訂 871円)

## 5) 収入

	事業費	就労支援
2021年度	40,579,130 円	56,948,911 円
2020年度	40,543,852 円	63,364,894 円
前年比	100%	89.8%

## 6) 整備

整備日	整備内容	金額	用途	
4月14日	作業用車両購入	1,760,000 円	・移動 ・運搬	ジムニー（社）清水基金様より助成1,100,000 円
6月14日	厨房内エアコン購入	550,000 円		

## 7) 就労事業

新型コロナウイルスの影響を受け、学校給食納品回数の減少や委託先からの注文数の減少により、就労支援収入は昨年比10.2%のマイナスとなりました。収支差額は若干ですがプラスとなり利用者の賃金を確保することはできました。しかし、将来を見据えての設備等整備積立を行う事が出来なかった為、今一度原材料費・経費等の見直しを計る必要があります。

就労支援事業収入 56,948,911		就労支援事業支出 56,901,026	
(2020年 63,364,894 円)		(2020年 62,637,296 円)	
たれ事業	27,785,449	原材料費	24,468,598
コロッケ事業	12,473,392	労務費	26,336,015
手織・縫製事業	2,848,609	経費	6,096,413
串事業	7,803,993		
清掃事業	2,689,930		
牛舎清掃事業	2,593,800		
その他	753,738		
		<u>収支差額 47,885 円</u>	

### ・たれ事業

前年対比で5%マイナスとなる。注文数が前年度よりも減少している為、月に2回販売先を訪問し、売れ行きの把握を行った。販売担当者と注文数の商談を行ってきたが、伸ばすことができなかった。その為、引き続き年間注文数の商談を続け、売上増を行う。また原材料の高騰が続いているが、今の品質を維持しその都度原価を見直し商品製造を行う。

### ・コロッケ事業

前年対比で20%マイナスとなる。コロナ禍の為、学校給食への納品回数が減ったことが要因となる。引続き、学校給食課と連絡を密にし、安心できる商品の提供を行っていく。7・8月の

店頭販売は、利用者・職員の体調面を配慮し中止した。

・手織・縫製事業

コロナ禍で自粛期間が延びる中で、展示販売のイベントも中止となり、また販売委託先からの受注も縮小傾向となり、年間を通して約半年間は作業を停止し串事業に従事した。

しかし、福山市の敬老会記念品製造の受注を頂き、その期間は作業を継続して行う事が出来た。

・串事業

昨年度と同様の売上を維持することができた。他部署より作業に入る利用者の調整を行い、稼働率を高め生産数を増やすことができた。

・清掃事業

利用者2人体制で企業内・社員寮の清掃作業を行っている。午後より作業を分担し、利用者1名は時間単位で串製造作業に入り作業を行っている。

・牛舎清掃事業

午前中だけの作業で、4人で40本のレーンを掃いている。利用者が休みの場合は、他部署の利用者又は職員が入り、毎日行っている作業量を落とさないように対応した。

## 2021 年度りひと事業報告 (就労継続支援 B 型事業)

2020 年度は、安定したという表現がしっくりくる年度でした。コロナ禍からの回復期ではありましたが様々な行動が制限される中での活動でした。

他事業との交流はほとんどなく、新たな利用の問い合わせが非常に少ない状況でした。ですので、事業の充実に時間を多く充てることができました。

利用者の人的刺激を軽減するための環境づくり、作業環境を向上させるための改装工事を手掛けることができました。

利用者の活動の場を整えることで他者との人的トラブルは少しづつ軽減されており、就労に向かう姿勢に変化が見られます。集中が高まるなど良い循環が生まれています。

年度当初に掲げていた、利用者工賃を一人あたり月額 35,000 円の達成をすることができました。これも利用者一人一人の力を結集したことそして、地域の皆さんにお力添えをいただいた結果です。

利用者は全員、人の役に立ちたいと願っています。就労を通して評価を得ることで生きがいに繋がっています。時には障がいゆえの課題から他者との問題を抱えることはありますがそれでも毎日通所されます。そんな彼らを見てみると「りひと」を運営している冥利に尽きると感じます。

これからも利用者職員とが力を合わせ事業所の活性化とより魅力ある場所へと今後も邁進してまいります。

### 1 利用の状況 (2022 年 3 月 31 日時点)

利用者の定員及び現在の利用者人数

利用者定員 20 人

利用者人数 15 人

平均年齢 47.4 歳 (2020 年 46.4 歳)

新規契約利用者 0 人

契約終了利用者 0 人

2 開所日数	275 日	(2020 年 271 日)
利用率	96.7%	(2020 年 97.8%)
延べ利用者人数	3,991 人	(2020 年 3,557) 人

延べ利用人数は利用者人数が 2020 年度半ばに増えたことにより上昇しているが利用率は前年度比 1.1% 減少。利用者の入院やワクチン接種後の副反応の為の休所が見られたことにより減少した。

### 3 利用者支援の基本計画

- ・利用者毎に支援内容を計画化して支援を提供

- 就労場面 → 機械を使った農薬散布、設備を操り灌水作業 など  
 生活場面 → 生活習慣病への知識提供 生活習慣の構築 など  
 1年に一度の計画立案及び6カ月に一度以上の見直しを実施

#### 4 生産活動について

##### (1) 作業の内容

- ・アスパラガスの栽培   ・ 水稻の栽培   ・ 牛ふん堆肥の袋詰め
- ・ 農作物植付等受託作業 (にんにくの植付・収穫・なすの収穫、出荷)
- ・ 玉ねぎの栽培           ・ 企業事業所清掃委託

##### (2) 利用者の工賃について

- ・ 就労支援収入           14,264,733 円   (2020 年度 15,059,884 円)
- ・ 利用者工賃総支給額   6,310,410 円   (2020 年度 5,607,260 円)
- ・ 利用者支給人数       延べ 160 人     (2020 年度 160 人)
- ・ 月額支給平均工賃     35,058 円      (2020 年度 35,045 円)

#### 5 運営の状態について

##### (1) 訓練等給付費収入と報酬単価

※訓練等給付費収入は 34,221,740 円 (2020 年度 30,760,260 円) となった。

報酬改定が行われ、下表①就労継続支援 B 型サービス費が利用者工賃に応じた体系に変更となる。それに伴い 6,210 円→6,720 円となった。また、新たに職員へ対しての福祉・介護職員処遇改善臨時交付金 ①~⑤の合算×1.3% (2~3 月分) 交付金等があり、合わせて約350万円の増収となる。

#### 6 その他

##### 整備等

整備日	整備内容	用途	
4 月 1 日	利用者の活動の場の設置	利用者支援	小部屋・壁の設置
4 月 7 日	手洗い場の改修	利用者支援	温水を設置

# 2021年度 にこてらす 事業報告

## (生活介護事業所)

はじめに

「利用者・職員 1人1人を大切にする」これをコンセプトに今まで活動してまいりました。1人1人を大切にするって、結局具体的には何なんだろう？新卒の職員や異動してきた職員とも共有する中でにこてらすなりのカタチが見えて来始めた1年でした。どうしても、施設のシステムや支援者の予定を無難にこなすことが目的となり個の存在を見落としがち傾向を打破するために、職員全体でその問題と向き合ってきました。会議を重ねる中で、1人1人の価値観や多様性をひとまとめにして、一律に扱うことのない環境設定の必要性和1人1人のできないことに着目するのではなく、その人のできることに視点を持っていくことの大切さ、それらを実現しカタチにするには、支援者の常識を取り払った創造性や感性が必要であることを朝礼・終礼時やケース会議等で確認しあいました。

「本人はいったいどう思っているのだろうか？」と原点に立ち返りながら、利用者には、安心できる空間と時間を補償できるよう現場を創り、改良を今まで以上に繰り返してきた1年でした。

この観点は、利用者支援だけの事ではなく職員集団づくりも一緒です。

さらに、利用者を大切にもらうためには、利用者の最大の環境である職員の環境をも整えること。そのために職員集団の中で、安心して自分の弱さを見せれる職場・環境や人のせいにしない職場・周りに流されず自分の意見を嘘偽りなく言える、その場しのぎではなく本音で支援できる持続可能な職場づくりに取り組んでまいりました。まだまだ共有・実現するには程遠いところにはいますが、ひきつづき根気強く取り組んでいきたいと思っております。

### 1 コロナウイルス感染症について

2月21日 コロナウイルス感染症陽性者が職員1名あり、福山市障がい福祉課・保健所と連携をとり法人本部の指示のもと対応させていただき、2月22、23、24日を休所としました。職員の1名陽性者以外に利用者・職員ともに陽性者はありませんでした。発生後の対策強化として、飲食前の手洗い・消毒の強化と消毒と検温の回数を増やし対応しました。

### 2 利用者の状況について

- (1) 利用者定員 20人
- (2) 利用者現員 2022年3月31日時点 16人(男12人 女4人)  
※2021年4月1日時点 15人(男11人 女4人)

- (3) 利用者の入退所 入所者1人

- (4) 障害者支援区分 (2021年3月末時点)

区分6	区分5	区分4	区分3
8人	4人	3人	1人

障害者支援区分の平均 5.18

- (5) 利用者の平均年齢 36.1歳(利用者の半数以上が40代以上)
- (6) 利用者の利用日数

年間開所日数 266日  
延べ利用人数 3,892人

### 3 生産活動について

- (1) 利用者・保護者の根強いニーズがある、生産活動では、‘自分でできた達成感‘を大事にしています。できるだけ利用者が自身で作業を完結できる環境を1人1人に合わせ用意し、以下の内容で取組みました。(牛ふん堆肥の袋詰め・配達・資源回収・さをり織り・洗たく・エアコン配管の解体作業)  
働き方は、1人1人違いますが、その人にあった「働く(役割を果たす)」を追求し生産活動を提供しています。
- (2) 支給工賃について  
支給工賃は工賃規定に基づき支給しました。  
2021年度支給工賃総額 2,752,466円(1人当たり平均 月14,336円)

### 4 利用者支援について

継続して、1人ひとりにあった支援が提供できるよう、利用者が活動する環境づくりや必要に応じて写真や絵カードを用いて伝え方を工夫し、各自が自立してできる活動を1つでも増やす取り組みを支援計画に位置付け取り組みました。

ケース会議については、毎日実施し、その根底となる理念や考え方について職員間で話をする機会を多く持ち、支援力の基盤づくりに力を注ぎました。

### 5 健康管理について

保護者よりご好評いただいている、希望者に予防接種・検査・受診を事業所では対応を引き続き行い、健康診断では骨密度の検査項目を追加しました。

生活支援員・管理栄養士・調理員で連携し、健康面に配慮するため本人にあった摂取量や本人の障がい特性にあった食事の提供方法の工夫を行っています。その積み重ねにより、9年間障がいの特性により給食が摂取できていなかった利用者が給食を食べるようになったといううれしい事例もありました。

また、保護者・管理栄養士・生活支援員とチームを組み、利用者の健康診断の結果をもとに個人の目標を設定し、体重や血圧などの変化の一覧表を手紙にして保護者にお知らせしました。希望の根強い「運動」の取り組みについては、専門家(生活習慣病を専門とするパーソナルトレーナー)との関係づくりを行い、利用者への理解をいただく中で少しずつアイデアを提供に結びつきつつあります。ひきつづき、来年度も連携し日課の中に「運動」を取り入れ定着を図っていきたくと考えています。

### 6 おわりに

利用者・保護者の意見を聞かせて頂きながら、試行錯誤する1年でした。半日通所時の食事の提供の開始や利用時間の延長対応、家族しか本人を支える環境がなかった方々からも、にこてらすの利用で暮らしが変わりましたと言っていただくことができました。これからも、法人内や他機関との連携を図り、みなさまの喜びにつながるようこれからも、誠実な対応を重ねてまいります。

## 2021年度 共同生活ほいーる事業報告 (共同生活援助事業)

はじめに

本年度は、2020年度の権利侵害を行ってしまった反省から権利擁護に力を入れました。

全職員を対象に研修会を行い、常勤職員には複数回の研修・会議を持ち取り組んでまいりました。しかしながら11月に利用者に対して権利侵害がありました。

医療機関への受診へ不安を訴える利用者に対して受診をしないと体調が悪化すると高圧的にせまり利用者が泣いてしまう一件がありました。

利用者のことを思っただけの言動ではありましたが、一番大切な当人の気持ちに寄り添うことができていませんでした。これを踏まえて全職員で振り返りを行い再発防止に努めております。研修を積み重ねるにあたり、多くの職員の意識が変わってきております。些細な言動に対しても疑問が出てくる環境に変わりつつあります。意識と気づきを大切にしたい集団でありつづけていきたいと考えております。

4月には利用料の改定を利用者にお願いし家賃の値上げをいたしました。

利用者の月間所得を考慮すると値上げには躊躇しましたが、現在の住居の改修工事を見据えて値上げをいたしました。

利用者は、グループホームを自分の住みかとして捉えて生活されています。2021年度は残念ながらお一人退去をされましたが、全員が自分の生活スタイルをみつけ安心した生活を過ごしています。「地域で当たりまえに暮らし、よかったと思える生活」。常に私たちが高い意識を持ち地域生活へ取り組んでまいります。

### 1 利用の状況(2022年3月末日時点)

#### (1) 利用者の定員及び現在の利用者人数

利用者定員 32人

利用者人数 32人

平均年齢44.5歳

新規契約利用者 1人

※2022年3月 1名

契約終了利用者 1人

※2021年12月 利用継続に本人が抵抗を感じ実家へ生活拠点を替えられた。

2 利用率 95.0%(2020年度93.5%)

開所日数 365日

延べ利用者人数 11,097人(2020年度10,950人)

利用率は、1.5%増。延べ日数にして147日増やすことができた。利用者の定員が充足した(空き居室がない)ことが大きな要因と思われる。

### 3 利用者について

## (1) 日常生活上の支援

○利用者へのサービス提供時間 15:00~9:00

※休所・欠席等の場合は上記時間以外の支援有

○サービス提供内容

- ・食事の提供、身体の保清、洗濯・掃除の支援・見守り、病院や外出を伴う社会参加の促しや連絡調整、生活に必要な金銭管理・見守り・助言、夜間見守り支援等
- ・利用者の長期休暇について  
お盆・年末年始等の日中活動の長期休暇時に実家等への帰省をされる方が少なくなってきました。家族（特に父母）の死去、高齢化により利用者の帰省中に家族が支援できないなど増えてきています。これは年々人数が多くなっている状況にあります。

## (2) 個別支援計画

利用者の思いや希望を聞き取り、各個人毎に支援の計画を立案してサービスを行った。

## 4 保健・衛生について

### (1) コロナウィルス感染症の対策について

消毒、パーティションの設置、検温と手洗いの実施

コロナ陽性者0人

### (2) 健康支援について

生活習慣病や体調に応じて通院の付き添いの実施。

服薬管理。

## 5 運営の状態について

(1) 訓練等給付費収入 ( ) は2020年

年間運営費 86,211,260 円 (80,697,080 円)

運営費は 6.8% の増収。大きな要因としては下記の通り

- ・利用者の定員充足ができ利用率が向上したため。
- ・新たな補助金、福祉・介護職員処遇改善臨時交付金が支給されたため

## 6 その他

### (1) 眠り SCAN の導入

利用者の睡眠状況を把握するためにロボット機器を導入。

3月

### (2) 新たな住居施設（ながえ館）開設のための建築及び説明会の実施

8月~3月

※ながえ館着工、竣工 10月~3月

開設日時 2022年4月1日

## 2021年度 相談支援センターつ・き・か事業報告 (指定特定相談支援事業所)

はじめに

権利の主体者である利用者自身が、日常の様々な場面で自分の思いに沿った活動が出来るよう支援する。その思いのもと計画相談支援を軸に、日々相談に携わっています。本人の意思が反映された生活のもと、あたりまえの様に意思決定支援が行われることが重要と考えます。

2021年度は報酬体系の見直しがあり、基本単価が改定されました。今回の改定では、小規模事業所の経営改善を対象として、基本報酬の引き上げが行われました。つきかの有効契約者数は年度当初の115人から112人へ減少しています。新規の利用契約者より、契約終了者数が上回りました。そのため報酬改定による収入増加は有りましたが、計画相談支援給付費収入は前年比103%に留まっています。厳しい経営状況は変わりませんが、利用者の思いを聞き取り、利用者を取り巻く支援環境と連携を図りながら相談業務を行ってまいりました。

### 1、計画相談支援の実施状況

#### (1) サービス等利用計画書作成件数、及びモニタリング実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用計画	4	7	14	7	3	13	11	13	10	9	7	9	107
モニタリング	14	17	13	15	17	10	15	21	17	17	11	21	188
合計	18	24	27	22	20	23	26	34	27	26	18	30	295

#### (2) 計画相談支援給付費収入

2021年度 4,359,200円 (前年比103%)

2020年度 4,223,350円

#### (3) 契約者の状況

112人

男女比		障害種別	
男性 71%	女性 29%	知的障害	70% (内9%身体障害あり)
		精神障害	27% (内40%発達障害)
		身体障害	3%

## 2、関係機関との連携、及び地域課題への取り組み

日々の相談支援業務において、関係事業所、行政機関、基幹相談支援センター、医療機関等との連携は欠かせません。つきかの個別ケースでは、保健師やメディカルソーシャルワーカー、介護福祉士、訪問看護師等と連携し支援を行っています。2021年度に於いては、育児中の利用者支援とその家族に向けた連携事例がありました。地域の保健師による育児指導（訪問）の実施、乳幼児健診での発達段階の確認と情報共有、介護福祉士の家事支援を利用した離乳食作り等の支援をケース検討やケア会議等を通して具体化しました。利用者本人からは、一緒に調理等を行うことでの分かりやすさや相談出来る環境が有ることでの安心感が伺えました。

地域課題への取り組みとしては、福山市総合支援協議会の相談支援事業所連絡会や神辺ブロック会議へ参加しています。2021年度はコロナ禍にあり、ブロック会議等の定期開催が難しい状況がありました。一方、福山市内の北部・新市ブロックと松永・沼隈ブロックに於いては、地域生活支援拠点事業の試行的取り組みが始まりました。ブロック会議の定期開催が無かったことで、地域課題や他ブロックの取り組み状況について、十分な情報共有等が行えませんでした。

最後に、つきかは法人内の役割として、福山市の地域福祉貢献活動の一環である「暮らしの相談窓口」の担当として、一般相談の受付を行っています。2021年度中に相談対応は有りませんでした。今後も身近な相談窓口として、地域に開かれた相談業務を行ってまいります。



### (3) 作業・訓練の状況

訓練内容は主に「にこにこ会」(就労継続支援A型事業)が行っている作業の一部を作業訓練として提供しています。また、企業から依頼を受けている仕分け作業も訓練として取り入れています。白衣を着る事、食品製造現場に入るための手洗いの方法、商品を扱う方法などを伝えています。今年度作成した共通評価シートの内容としては、手先や道具の使い方や作業説明に対する理解度などを評価(アセスメント)するものとなっています。

卒業する利用者については在学中に、就職先である職場や支援者へ情報提供シートを作成し、本人の特性や支援方法などを伝えました。

#### 業務改善に向けた取組として

新型コロナウイルス感染症による行動制限下において、保護者と対面で話す機会が減ったことで、利用生徒の訓練状況などを十分にお伝えすることが出来ていません。そのことは、自己評価の保護者へのアンケートからも指摘として出されていきました。その他の意見として、概ねサービス内容についてご満足いただけている状況です。

そのため、これまで実施出来ていなかった保護者との連絡帳へ利用時の様子を記入することで、活動状況や利用者の様子を細かくお伝えすることとします。

次年度においても、利用者数とサービス内容を充実させることで、事業の安定化を図ります。